



令和4年度事業評価書

令和3年度 事業名		3款 2項 1目 区庁舎・駐車場・車両		所管区局・課	緑区総務課	令和4年度 事業評価書 番号	3-2-1 1	
事業概要	実施根拠	法令等 ■ 法律 □ 条例 ■ 規則 その他 □	具体的 名称	消防法、建築基準法、駐車場法、道路運送車両法、横浜市 庁舎管理規則等				
	事業の目的 (事業開始の 経緯)	緑区役所の適正な庁舎管理運営のため、設備等保守委託、公用車の管理等を実施する。						
	具体的な 事業内容	緑区役所庁舎管理運営、公用車の管理等						
		本事業は右記に該当するため、以降の記載を一部省略します。			□ 法令に基づく義務的経費 □ 内部事務経費のみ			
事業実績	達成指標	指標名(単位)		平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	
		目標 実績						
		目標 実績						
		上記の指標で定量的な設定が 困難な理由		施設等の経常的な維持管理費であるため。				
	予算額・ 執行額、 事業費の 推移			平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
		現計予算額		83,993千円	81,105千円	84,288千円	87,729千円	
		支出済額		76,109千円	77,541千円	78,627千円	84,580千円	
		繰越額		0千円	0千円	0千円	0千円	
		差▲引		7,884千円	3,564千円	5,661千円	3,149千円	
		執行率(%)		91%	96%	93%	96%	
		人 件 費	一般職職員		1.0人	1.0人	1.0人	1.0人
			再任用職員		0.0人	0.0人	0.0人	0.0人
	概算人件費		8,785千円	8,823千円	8,770千円	8,770千円		
総事業費			84,894千円	86,364千円	87,397千円	93,350千円		
		増▲減		1,470千円	1,033千円	5,953千円		
事業評価の 視点による 点検・ 検証・ 評価	本市が行う 必要性	公用施設として適切な運営を行うために、保守点検を含めた維持管理が必要である。						
	事業目的に 対する 有効性	施設の維持管理及び庁舎内環境の向上を行い、安定した施設運営を行っている。						
	本事業の 効率性・ 類似性	施設に係る管理経費について必要性を精査するとともに、安全性を重視した施設運営を行っている。						
	市民等外部 意見を聴取 する仕組みと 反映状況	■ 有 □ 無		窓口応対や投書等により住民等利用者からの意見を把握し、反映に努めている。				
	自己評価 及び 事業見直し の方向性	引き続き光熱水費の節減に努めるとともに、施設の適切な運営を行っていく。						

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	予算調整係
	齋藤 龍也	芳賀 義之	藤尾 利恵

## 令和4年度事業評価書

令和3年度 事業名	3款 2項 1目 公会堂		所管区局・課	緑区地域振興課	令和4年度 事業評価書 番号	3-2-1 2	
事業概要	実施根拠	法令等 その他	<input type="checkbox"/> 法律 <input checked="" type="checkbox"/> 条例 <input type="checkbox"/> 規則	具体的 名称	横浜市公会堂条例 その他 横浜市公会堂条例施行規則		
	事業の目的 (事業開始の 経緯)	横浜市公会堂条例に基づき、市民の集会や各種行事を開催する施設として設置した。					
	具体的な 事業内容	横浜市緑公会堂の管理運営					
		本事業は右記に該当するため、以降の記載を一部省略します。			<input type="checkbox"/> 法令に基づく義務的経費	<input type="checkbox"/> 内部事務経費のみ	
事業実績	達成指標		指標名(単位)	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績
	稼働率	目標	60.10%	62%	64%	53%	
		実績	64.50%	61.40%	35.10%	30.3%(1~3月)	
		目標					
		実績					
	上記の指標で定量的な設定が 困難な理由						
	予算額・ 執行額、 事業費の 推移			平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		現計予算額		39,337千円	41,499千円	41,878千円	41,625千円
		支出済額		39,902千円	40,721千円	41,146千円	40,828千円
		繰越額		0千円	0千円	0千円	0千円
		差▲引		△ 565千円	778千円	732千円	797千円
		執行率(%)		101%	98%	98%	98%
		人 件 費	一般職職員		1.0人	1.0人	1.0人
再任用職員			0.0人	0.0人	0.0人	0.0人	
概算人件費			8,785千円	8,823千円	8,770千円	8,770千円	
総事業費		48,687千円	49,544千円	49,916千円	49,598千円		
増▲減		—	857千円	372千円	▲ 318千円		
事業評価の 視点による 点検・ 検証・ 評価	本市が行う 必要性	市民が集会や各種行事を低料金で実施できる施設として必要である。					
	事業目的に 対する 有効性	市民のサークル、公的団体、民間事業者など、幅広い団体から多目的に利用され、市民サービスの向上に寄与している。					
	本事業の 効率性・ 類似性	平成28年度から指定管理者制度を導入したことにより、民間ノウハウを活用し、施設運営費の削減を意識した効率的な運営を行っている。					
	市民等外部 意見を聴取 する仕組みと 反映状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	第三者による評価、利用者意見の収集、アンケートを行っている。				
	自己評価 及び 事業見直し の方向性	令和3年度はワクチンの集団接種会場として使用されたため、全館一般利用の再開は12月中旬となった。さらに1月21日～3月21日まで新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置期間となり、利用者が利用を控えたことにより、稼働率は例年以上に低かった。令和4年度以降は、感染拡大状況を見極めながら、利用者サービスの向上を図っていく。					
本資料は、公正・適正に作成しました。			課長 中野 浩一郎	係長 山尾 敏弘	生涯学習支援 係 宮内 寛子		

## 令和4年度事業評価書

令和3年度 事業名	3款 2項 1目 地区センター等(委託館)		所管区局・課	緑区地域振興課	令和4年度 事業評価書 番号	3-2-1 3
事業概要	実施根拠	法令等 □ 法律 ■ 条例 ■ 規則 その他 □	具体的 名称	横浜市地区センター条例 横浜市地区センター条例施行規則ほか		
	事業の目的 (事業開始の 経緯)	区民が気軽に利用できる施設を提供することにより、区民の健康増進、地域コミュニティの醸成に寄与することを目的として開始した。				
	具体的な 事業内容	区民利用施設(地区センター4館、スポーツ会館、コミュニティハウス6館、こどもログハウス、老人福祉センター、スポーツセンター、区民文化センター)の管理運営 本事業は右記に該当するため、以降の記載を一部省略します。 □ 法令に基づく義務的経費 □ 内部事務経費のみ				
事業実績	達成指標	指標名(単位)	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績
		目標 実績				
		目標 実績				
		上記の指標で定量的な設定が 困難な理由	15施設を9団体がそれぞれ管理・運営しているため。			
	予算額・ 執行額、 事業費の 推移		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		現計予算額	413,147千円	418,082千円	423,260千円	423,043千円
		支出済額	415,108千円	417,986千円	423,126千円	424,890千円
		繰越額	0千円	0千円	0千円	0千円
		差▲引	△ 1,961千円	96千円	134千円	△ 1,847千円
		執行率(%)	100%	100%	100%	100%
人 件 費		一般職職員	1.0人	1.0人	1.0人	1.0人
	再任用職員	0.0人	0.0人	0.0人	0.0人	
	概算人件費	8,785千円	8,823千円	8,770千円	8,770千円	
	総事業費	423,893千円	426,809千円	431,896千円	433,660千円	
	増▲減	—	2,916千円	5,087千円	1,764千円	
事業評価の 視点による 点検・ 検証・ 評価	本市が行う 必要性	地区センター等の指定管理者制度導入施設は、各地域におけるシンボリックな存在として、区民の健康増進や地域コミュニティの醸成に大きく寄与している。				
	事業目的に 対する 有効性	施設に対する地域ニーズは高く、幅広い利用がある。				
	本事業の 効率性・ 類似性	人件費にかかる費用が年々上昇する中、民間ノウハウの活用により、施設運営費の削減を意識した効率的な運営を行っている。				
	市民等外部 意見を聴取 する仕組みと 反映状況	■ 有 □ 無 評価機関による第三者評価を指定管理期間中に1回以上実施し、その結果を踏まえ業務の改善を図っている。また、地域の代表者等で構成される運営委員会や利用者代表からなる利用者会議を開催し、そこでの意見を運営に取り入れている。				
	自己評価 及び 事業見直し の方向性	利用者の意見を踏まえ、運営方法の見直しや備品更新等を行うことにより、稼働率及び利用者サービスの向上を図っていく。				
本資料は、公正・適正に作成しました。			課長 中野 浩一郎	係長 山尾 敏弘	生涯学習支援 係 谷 翔太	